

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174600197		
法人名	社会福祉法人 慧誠会		
事業所名	グループホーム ベルエポック		
所在地	帯広市川西町西1線47番地6		
自己評価作成日	平成29年9月6日	評価結果市町村受理日	平成 29年 12月 26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&Jig_yosyoCd=0174600197-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号		
訪問調査日	平成29年10月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所された後だからこそ、ご家族との繋がりを大切にしている。専門職によるケアに加えて、「ご家族の協力が必要」という事を伝えさせて頂き、行事へ参加頂いたり、体調変化時の連絡はもちろんですが、お手紙に写真を載せて毎月様子をお知らせしている。要望を言葉にして頂く事で、職員がご家族の気持ちに近づく事が出来、ご利用者にとっての良いケアに繋がるので、都度伺うようにしている。通院支援の協力を頂いたり、医師からのお話を聞く場面に同席頂き、状態の変化を一緒に考えさせて頂いている。日常から、職員同士で情報や意見の交換が出来る様に心掛け、毎月の会議で一人一人が発言し、お互いの考えを知ってケアの方向性を揃えられるように努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、自然豊かな十勝平野の閑静な農村地帯に位置し、母体法人が運営する福祉施設群がコミュニティを形成し、事業所は災害対策、行事、重度化や終末期の支援体制など同じ関わりを持つことにより事例を共有して質の高いケアに努めている。居間は陽光が入り明るく、温・湿度が調整され、廊下には利用者の作品、行事の写真を飾って、家庭的で明るく居心地の良い雰囲気になっている。調理室が中央にあり職員が仕事をしながら利用者動線観察が容易で、利用者は安心して思い思いに過ごしている。家族との繋がり、地域連携を目指し、地域の祭りや町内清掃、幼稚園や小学校等の運動会・文化祭に参加するなど交流を深めている。また、地域への社会貢献意識も高く、ボランティアや人材育成研修を受け入れたり、様々な障害者就労支援を行っている。そのため地域を巻き込んだ帯広市総合事業(互助活動、認知症への理解、周辺の認知症の悩み相談等)への取り組みにも参画する試みもあり、更に邁進する事業所になるものと思われる。その取り組みに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームは法人の「基本理念」高齢者部門の「ケア理念」更に「グループホーム基本理念」に基づいて運営している。ケア理念を身につけられるように会議で意味合いを話し合い、実践に繋がられる様、意識している。	法人の理念とケア理念、事業所独自の基本理念をつくり、職員は地域密着型サービスの意義や事業所の役割を会議で話し合い共有しながらケアに反映させている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	見学や実習、ボランティアを受け入れ、地域との繋がりに努めている。利用者と一緒にスーパーへ出掛け、地域を感じられる機会を作っている。	農村地帯で周辺には市街地が無い。従って川西地域と言う広域の地域密着を念頭にJAかわにし、3つの町内会との交流を大事にし、地域の祭りや町内清掃、幼稚園や小学校等の運動会・文化祭に参加するなど交流を深めている。また、農業団体や周辺町内会との交流も深めている。	事業所は、社会貢献意識も高く、就労支援や社会福祉研修の受入れに関する事業を既に実施している。次のステップとして、地域に密着した活動を目指す社会貢献事業「介護予防の取組」や「認知症の地域への理解」、「地域内の悩み事相談」を農業団体や周辺町内会と連携を図り取り組むことを期待する。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学者へ、GHの説明だけではなく、質問に応じて認知症の事、認知症ケアの事をお伝えしている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員には、GHの評価だけではなく、行事へ参加して頂き、利用者や職員と直にふれあい知って頂けるよう機会を設けている。	運営推進会議は家族等の代表や地域包括支援センター職員、町内会代表等の参加を得て2ヶ月に1回開催している。会議では利用者の生活の様子や運営状況、行事の報告をするともに、課題などを話し合って意見や助言を得てサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課や生活保護課への連絡を必要に応じて行っている。高齢者福祉課から敬老会へ来賓として参加頂く事もある。(今年は来られなかった。)	管理者は要介護更新申請などで市担当者を訪問し、運営状況を報告するとともに、福祉等に関する情報、感染症予防対策の指導を受けている。また、市担当課長も行事に出席し、情報提供、指導、助言を得ている。社会福祉士研修や就労支援研修、ボランティア研修受入を積極的に行って日頃から協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	実際に拘束に至る事例はない。職員同士がケア内容に関して意見交換する事で、言葉による拘束にも気を付けている。	拘束となる行為とそれに伴う弊害は勉強会やミーティングで全職員理解しており、拘束をしないで利用者の安全に配慮するケアに努めている。書面で拘束に関し明示し家族に契約時に説明している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修会に参加して、意識付けを行っている。			

グループホーム ベルエポック

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議で研修報告を受け、身につけられる様心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、運営規定や重要事項説明書・個人情報保護等について利用者・ご家族に説明を行い、個別の状況を検討しつつ、理解・納得・同意を頂き、契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会にご家族に参加頂き、意見を頂いている。苦情受付窓口を施設内に設け、利用者・ご家族からの要望を伝えやすい様に配慮をしている。	利用者からは日常の会話や生活の中で意見や要望を把握し、家族等からは来訪時などに意見や要望を聴くよう努めている。出された意見、要望は毎日の引継ぎ、職員会議で話し合い、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議と、日常の会話の中で意見交換をしながら運営している。	管理者は、職員が率直に意見等を言いやすい雰囲気や困気を大切にしており、個別に意見・要望を聞く機会を心がけ、ストレスや不満の解消に努めている。朝夕毎日の引き継ぎ、業務日誌、ベルエポックノート記載等と毎月の職員会議を通じて運営に反映させている。それぞれの意志の疎通が密である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本来の職務を常に自覚する働きかけと共にそれに沿った反省材料や向上した事を評価して納得しながら取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成目的の人事考課を取り入れ、日常業務を通じてスタッフ個々に合った育成を目指している。その他に研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会で交流する機会があり、交流事業に参加して情報交換し、良い取り組みを参考にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前・後に関わらず、話をする事を大切にしている。その中で本人の「不安」「悲しみ」「楽しみ」を知り、職員間で話し合い共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が抱える困り事を聞かせて頂きながら、本人との関係性の良し悪しを把握しつつ、ここで大切にしている事柄を伝え、途切れの無い関係作りの協力をお願いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	説明時に職員から、利用者のご家族が「何を大切にしたいか」を伺い、「こんな事をしていきたい」と双方が話し合う場を大切にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人がしてみたい事やどうしたら本人が満たされるのかを念頭におきながら対応している。家事活動を一緒に行いながら、アドバイスを頂き、お礼を伝える場面を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調変化や通院代行後には連絡を取り、ご家族からの要望を伺い、日常のケアと一緒に参加して頂く事を意識的に取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの床屋に出掛けたり、法人内の事業所の行事に参加して、馴染みの人や場所での交流を持つ様に支援している。	職員は利用者との日々の会話や家族等から話を聴き、利用者が築いてきた馴染みの人や場所を把握するよう努めている。友人の来訪があった場合は、居室でゆっくりできるように配慮している。母体法人福祉施設への訪問、理美容、ボランティア来訪等で馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が声を掛け合い、それを職員が仲介して、なじみの関係になるように、そっとお手伝いをさせて頂いたり、見守りながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族が運営推進委員を継続して下さっている。定期的に来て下さっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や様子、表情を通して意向の把握をしている。職員間で共有し、それぞれの気づきを伝えあっている。	日々の会話、表情、家族の情報から思いや意向の把握に努め、希望や意向に添うように努めている。職員間で利用者固有のサインを共有出来ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を確認したり、ご本人やご家族に伺い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報を共有し、少しでも変化があれば伝え合うようにして、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常や会議で気づきや意見を話し合い、ご家族の意向を聞くように努めている。	利用者、家族の意向を反映させ、毎月カンファレンスを行いアセスメントとモニタリングを繰り返しながら、6ヶ月毎に介護計画を作成し家族の確認印を得ている。状況に変化があればその都度、医師、看護師と相談をして見直すこととしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々録や連絡ノート、会議を通して、日々見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態変化に合わせて必要な支援も変化する為、職員間で話し合う機会を持ち、取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや運営推進委員との交流を多くもっている。地域とのつながりを持つ為、イベントを計画している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望に沿った、かかりつけ医に受診できる様、支援している。	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるよう支援している。受診は基本的に家族が行っているが、利用者の状態等を書面で医師に伝えている。又、家族が同行できない場合には、職員が同行し受診結果を家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に気になる事柄を相談して、通院したりアドバイスを頂いている。往診の看護師からも電話を頂き様子を伝え相談させて頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病状説明の場へ出向き、情報交換している。病院との連絡を密にして、対象者の様子を伝えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診の医師から、今後の治療方針についての話し合いの場を提案頂き、ご家族も参加され一緒に話したり、職員向けに看取り学習会を開き、知識を得て支援に取り組んでいる。	入居時に、本人や家族へ「重度化した場合における対応の指針」に基づき説明し、同意を得ている。今年7月に102歳の利用者の看取りを行った。看取りに関する研修会や職員全員による勉強会を通して学び、支援につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃、気になっている事を含めて、会議で話し合い、確認して緊急時に備えている。解らない事が無いように個々が日頃から声に出すよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	会議を開いて話あったり、避難訓練を行い、有事に備えている。緊急時の職員連絡網を備えている。	日中及び夜間を想定した避難訓練を年2回実施している。訓練には運営推進会議メンバーや地域住民が参加している。また、災害時に必要な備蓄品は隣接する母体法人が準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレへ行ったような様子が伺えたらそっとお誘いしたり、拒否がある時は時間をおいたり人を替えたりして、気持ちよく過ごして頂けるよう配慮している。	利用者それぞれの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわない声かけ、対応を心がけている。特にトイレ誘導等の際は、耳元で小声で伝える等、羞恥心に配慮した声かけに心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物等、希望を伝えて頂けるよう、会話の中で働きかけ、言いやすい雰囲気大切にしている。その上で自分で決めて頂けるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者の体調や気分に合わせて支援している。職員が、「待つ」ことで力を発揮下さる方がいるので、それを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事の日には、お化粧したり、2か月ごとにヘアカットを依頼したり、服がいたんできたらご家族に相談して買い替えて頂いたり支援している。		

グループホーム ベルエポック

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを聞いたり、食材の皮むきや味見、盛りつけや、食器洗いを活躍頂いている。	利用者の嗜好を取り入れながら、栄養のバランスを考えた献立を作り、利用者は残存能力に応じ、調理、盛り付け、食器洗いをしている。職員と一緒に食卓を囲み歓談しながら楽しく食事をしてしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に水分摂取量・食事の状況を記録している。職員間で声を掛け合い利用者に勧めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、うがいを促したり、自分で出来る方は見守りしている。不十分な状況がある時は支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	「行きたい」との希望や時間をみて誘うようにしている。立位が不十分な方は、安全に配慮して職員二人介助で対応している。	排泄チェック表を活用し、表情、態度などから声掛けや誘導を行っている。多くは固有のサインを見逃さないでスムーズな誘導をしている。また、利用者が自力でできる部分を見出し、自立の拡大を図るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	確認表をチェックし、日頃から寒天ゼリー、ヤクルト、野菜中心の献立をすすめ、医師と相談して下剤の調整をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	「入りたい」との要望を尊重したり、週2回をめぐりに誘っている。湯の温度を伺い、ゆっくり対応している。	週2回を基本に入浴している。湯が沢山入るよう浴槽が深いので、利用者の体力や身長などによって深さの調節台を使用して、希望の湯の温度でゆっくり入浴を楽しめるよう支援している。入浴を拒む場合は、入浴したい日時に合わせて変更している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも、お疲れの様子が伺える時には、ソファやベッドで休んでもらえるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々人の薬を朝昼夕に分け、職員から本人に勧め、のみだめた事を確認するため、見とどけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出や散歩をしたり、昔の経験談を伺い今もできる事を活躍して頂き、お礼を伝える場面を意図的につくるように支援している。		

グループホーム ベルエポック

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者が楽しめる様な場所を職員が提案したり、本人から「行ってみたい！」と要望があると、出来る限り近い時期に外出している。	家族からの情報を活かしながら、散歩や墓参り、買い物等利用者が希望する場所や楽しめるような場所への外出支援を行って、日常生活に潤いに変化を提供するよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人より買い物に行きたいと希望がある時や職員からの働きかけで一緒に買い物へ出かけ、自身で支払いが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族から手紙や贈り物が届いた時に、本人の要望に応じて隣に座って一緒に手紙を書いたり、付き添って電話している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音楽を聴くのが好きな方の近くにラジカセやCDを置いて好みの音楽をかけている。一緒に歌ったり、お話する中で、コンディションを把握している。トイレの場所を張り紙を見て自分で動けるよう工夫している。	高い天井には天窓があり、そこからは陽光が入り込んで明るく、調理室が中央にあり常に利用者と職員双方に見通しよい空間となっている。廊下には利用者の作品が展示されており、行事の写真が飾られて明るく居心地の良い雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座って飲み物を勧めながらお話したりくつろげるように配置したり、好みにより静かに過ごせるよう座れる場所がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者本人の使いなれた物を置く際に、本人やご家族とお話して、置いている。	居室の広い空間には、使い慣れた物や佛具を持ち込み、ベットはそれぞれ個別に向きが異なり自由で、その人らしく居心地良く過ごせるよう配慮され生活感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子やシルバーカーを利用している方の動線を配慮してテーブルやソファを配置している。		